

# 町長回誌 No.191



町長回誌の第 191 号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

## 9月17日(火) PM 4:00

秋祭りが終わり、三連休が過ぎ、朝夕の寒さを感じる季節になりました。前から疑問に思っていたのですが、この季節になると道路に降りている鳶（トンビ）が多いとは思いませんか？ 彼らは飛び立つのが遅いのでよく車とぶつかったりします。この時期路面の方が温かいから道路に降りて温まっているのでしょうか？ 誰か知っていたら教えてください。9、10日の興部、12、13日の沙留の神社例大祭は素晴らしい晴天のなか行われました。14、15日は宇津・秋里・住吉・富丘の各八幡神社のお祭りが、これも15日朝まで降っていた雨が上がり無事行われたようです。16日には豊野八幡神社のお祭りも行われました。このようにそれぞれ先人から受け継いできた伝統のお祭りを人が減っても形が変わっても工夫をしながら続けていくことに私は素晴らしいさを感じています。節目の地域行事を住民の手で執り行うことは正に「自治」の原型だと私は考えています。

## 8月20日(火)

紋別海上保安部の岡本部長が興部中学校に来られて国土交通大臣表彰の伝達を行ってくださいました。この表彰は沙留中学校の時代から中学生が海辺の清掃を伝統的に続けてきたことが認められたもので、昨年の沙留小学校に続いての快挙です。特に今年は世界的に海に漂うプラスチックごみの問題が騒がれている時で、町としてもとても嬉しいことです。

## 8月22・23日(木・金)

私が会長を務めていますバイオマス産業都市推進協議会の視察研修で群馬県上野村に行っていました。上野村は東京駅から3時間ほどで到着する関東圏で、群馬と言うより埼玉県のすぐ隣のような所なのですが、険しい山に囲まれた村で、大型バスでは村には入れないため小型バスに乗り換えなければなりません。山と言ってもスキーも出来ないような急傾斜の山また山で、水田が全くない村です。僅かな畑で小麦やこんにゃく、野菜などを栽培し、主たる産業は木材業でした。ただし、立ってられないような急斜面に植林をしているのです。トンネルが開通するまでの住民の苦労は想像もできません。それもそのはずで、この村は戦国時代に滅亡した武田家の家臣が隠れ住んだ里であったそうで、今井家と黒澤家が圧倒的に多いのです。村長は黒澤八郎さん、私たちのお世話をいただいた課長も黒澤二郎さんでした。実は、この村は今から34年前、あの坂本九さんが亡くなった日航機墜落事故の現場となった御巢鷹の尾根のある村なのです。その時、救助作業の陣頭指揮を執ったのも黒澤丈夫村長でした。この村は大変に貧しく、いかに村を豊かにするかに長い間努力をされてきました。その手法として唯一の資源である木材を活用したバイオガスをエネルギーとしてシイタケ栽培や観光産業などに大変な工夫を重ねてこられ、今ではかなりの数の若い移住者や観光客を迎え産業起こしにも成功しています。本当の意味で、バイオマスでまちづくりをしている村なのです。釣りたてのアユ、ツキノワグマ、シカ、イノシシなども美味しかったです。上野村の皆さんお世話になりました。

西興部村が9月21日死亡事故ゼロ9000日を達成します。24年半続く大記録です。これまでの村の皆様のご努力に心からお祝いを申し上げます。興部町も現在4400日を超え4500日を目指して現在全道2位なのですが1位はあまりにも大きな記録ですね。これからは輸送繁忙期を迎えますし日没も早くなりますから皆様事故にはくれぐれも気を付けて美味しい秋を楽しみましょう。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、町役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務厚生係まで。TEL 82・2131です。

